

出張報告

報告日 令和8年1月26日

会 派 名	柏崎の風
報告者氏名	柄沢 均
種 別	<input type="checkbox"/> 調査研究（ <input type="checkbox"/> 行政視察） <input checked="" type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議
用 務	決算カード特別研修
日 時	令和8年1月21日 ~ 令和8年1月22日
場 所 （会場）	京都JAビル（京都市南区東九条西山王町1）
概 要	<p>「支出の基礎徹底解説」</p> <ol style="list-style-type: none"> 歳出の2分類 <ul style="list-style-type: none"> 目的別歳出：教育・福祉など行政目的ごとの分類。住民に説明しやすい 性質別歳出：人件費・物件費・扶助費など経済的性質で分類 財政分析に不可欠 ※分析には性質別歳出の方が重要 財政原則 <ul style="list-style-type: none"> 公平性：水平（同条件に同対応）と垂直（所得差に応じた調整）の両面がある 支出の妥当性：①住民ニーズに合致 ②費用が最小限 実務上の注意点 <ul style="list-style-type: none"> 人件費と物件費はセットで判断（委託費含む） 補助費等・繰出金は特別会計や公営事業への支出 投資的経費は将来の維持費も考慮 包括的委託の課題 <ul style="list-style-type: none"> 中間業者による費用増の懸念 職員負担軽減など「見えない費用」も含めて判断 特別会計との関係 <ul style="list-style-type: none"> 介護保険・水道事業などは独自収入を持つが、一般会計からの補填が必要 「補助費等」「繰出金」として支出される <p>「財政収支の見方（自治体財政の最重要ポイント）」</p> <ol style="list-style-type: none"> 黒字・赤字の正しい理解 <ul style="list-style-type: none"> 赤字＝歳入＜歳出であり、自治体が最も避けるべき状態 表面上の黒字でも、基金取り崩しによる黒字は財政悪化のサイン 黒字には以下の2種類がある

①健全な黒字（歳入＞歳出）②基金取り崩しによる黒字（見かけの黒字）

2. 財政危機の本質：基金の枯渇

- ・実質単年度収支が赤字→基金取り崩しが継続
- ・基金が底をついた時点で赤字が表面化し、財政破綻に至る
- ・全国で基金急減の自治体が増加

3. 財政を見る際の最重要指標

- ・実質収支：単年度の黒字・赤字
- ・実質単年度収支：その年度の“本当の財政力”赤字が続くと危険
- ・財政調整基金残高：減少傾向が最大の警告サイン
- ・将来収支見通し：収支不足の規模と基金枯渇時期を把握するために必須

4. 財政危機宣言の意図

- ・本当に危機的な場合：基金枯渇が迫り、歳出削減を急ぐ必要がある
- ・危機ではないが改革を進めたい場合：行政改革のための政治的メッセージとして宣言するケースもある

5. 財政収支のポイント

- ・自治体財政の唯一のルールは、「赤字にならないこと」＝基金を枯渇させないこと
- ・財政危機の判断は、実質単年度収支の継続赤字×基金残高の減少×将来収支の悪化の組み合わせで行う
- ・議会は、行政に将来収支見通しの提示を求め、財政状況を継続的に監視する役割を持つ

「財政指標の見方（財政見通しの苦しさを知るために）」

1. 財政力指数と留保財源

- ・税収で標準的行政サービスをどれだけ賄えるかを示す
- ・交付団体では税収増の25%が自由度の高い「留保財源」となる

2. 経常収支比率

- ・義務的経費が一般財源をどれだけ圧迫しているかを示す最重要指標
- ・高いほど財政の自由度が低下
- ・比率引き下げは目的化せず、住民サービスの便益との比較が必要

3. 健全化判断比率（4指標）


- ①実質赤字比率 ②連結実質赤字比率 ③実質公債費比率 ④将来負担比率
- ・基準超過で「早期健全化団体」、さらに悪化で「財政再生団体」
- ・夕張市の例から、基準超過は住民サービスの大幅制約につながる

4. 有形固定資産減価償却率

- ・公共施設・インフラの老朽化度合いを示すストック指標
- ・高いほど更新費用の将来負担が大きくなる

5. 財政の健全性をみるポイント

- ・実質単年度収支の継続赤字
- ・経常収支比率の上昇と内訳
- ・健全化判断比率の水準
- ・財政調整基金の残高

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共施設の老朽化状況 ・ 財政運営が住民福祉に結びついているか
	
<p>所 感 等</p>	<p>自治体財政を読み解くうえで不可欠となる「歳出構造の理解」「財政収支の本質」「将来見通しの捉え方」について、改めて基礎から整理することができた。目的別歳出と性質別歳出の違いは、財政分析においては性質別歳出の把握こそが重要である。また、財政の健全性を測るうえで「黒字・赤字」の表面的な数字だけでは不十分であり、実質単年度収支と基金残高の推移こそが自治体の“本当の体力”を示すという視点は非常に勉強になった。また、実質単年度収支は「プラスとマイナスを繰り返すほうが良い」ということは大きなポイントである。基金取り崩しによる見かけの黒字が続くことの危険性、そして全国的に基金が急減している自治体が増えている現状は、柏崎市においても今後注視すべき点である。さらに、財政力指数・経常収支比率・健全化判断比率・将来負担比率などの指標は、単に数値の上下を見るのではなく、その背景にある構造的要因を読み解くことが重要であると理解した。公共施設の老朽化を示すストック指標の重要性は、今後の施設再編や更新計画を議論するうえで欠かせない視点である。</p>